

石川縣羽咋郡菅池地方ニ於ケル奇病調査報告

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/38540

本症ニ對シテハ全ク療法ナシ只外界ノ關係身神ノ安靜等ハ比較的好響ヲ見其經過好良ナル場合ニハ平流電氣應用及臭剝沃剝ノ內服等有効ナルアリト、ヒヨスチン皮下注入ハ一時該運動ヲ停止セシムルニ足ルト Hammond 氏ハ一回ノ正中神經展伸術ニヨリ効ヲ収メタリト按摩体操冷水療法催眠術モ亦試用セラレタリ其他最必用ナルハ原病療法之レナリ余等ハ本患者ニ對シニケ月間沃剝臭剝ヲ應用セリト雖モ著効ヲ見サリキ尙今后驅讎療法ヲ初メ種々ノ療法ヲ試ミ后日報告スルコトアルベシ (引用書目名省略)

○石川縣羽咋郡管池地方ニ於ケル奇病調査報告

特別會員 岡本太郎

(澤金)

外四名

緒言

明治參拾九年四月富山縣氷見郡熊無村ニ於テ一種ノ奇病發見セラレ本邦ニ稀レナルベキ尙僂病ナラントノ風聞甚々盛トナリ次テ地理相接スル、我石川縣下羽咋郡管池ニ於テモ少カラサル同病者ノ存在ヲ耳ニセシヲ以テ村上庄太、上田計二、小原芳雄、山本長助、岡本京太郎、五名ノ間ニ之カ調査ノ議成リ直ニ出張踏査ヲ遂クルコト左ノ如シ

第一章 地理

余等ノ調査セル區域ハ石川縣羽咋郡北邑知村ナル字管池、千石、神子原、ノ全部及福水、北志雄村字清水原ノ一小部分ニシテ緯度三十六度五十二分經度百三十六度五十三分ニ位シ同郡羽咋町ノ東北約三里ニアリ而シテ北ハ石動山南

ハ寶達山ニ連レル山脈ノ山腹ノ罅間ニ散在セル部落ニシテ彼ノ氷見郡熊無村ト相背ス羽咋町ヲ去ル二里半飯山驛ヨリ半里ニシテ福水ニ至レバ急ニ峻坂トナリ道ニ岐シテ一ハ千石一ハ神子原ニ通ズ各約半里程ナリ千石神子原ヨリ又半里ニシテ路合シテ管池ニ出ツ故ニ千石神子原管池ハ三角ノ各隅ニアリテ管池ハ其頂点ヲ占ムト云フベシ而シテ管池ハ海面ヲ抜クヲ約三百五十尺ニアリト云フ而シテ清水原ハ管池ノ南方亦半里ヲ隔テリ、管池ヨリ登ルヲ十町ニシテ山頂ニ達シ又下ルヲ十町ナレバ熊無村字論田ニ出ズ名ツケテ論田越ト云フ又管池ヨリ發シテ千石、神子原ノ間ヲ流ル、罅川アリ兩側ニ田アリ畑アリ山腹ニハ喬木多ク特ニ管池ハ全ク深林ノ中ニ介在セリ土質ハ主ニ粘土ナリトス

第二章 生活狀態

住居ノ關係 本村ノ家屋ハ概シテ貧富ノ度ニヨリテ少差アレモ普通山間ニアル農民ノ住居ト同シク不潔ノ程度ニ於テモ特更ニ着目ヲ引ク程ノコナク床下モ一般ニ高シ重病患者ヲ有スル三戸中一戸ハ光線氣流ノ不充分ナル矮屋ニシテ土間ニ藁或ハ吳座ヲ敷キテ起臥セシモ(字千石)他ノ二戸ハ可成大ナル家屋ニシテ床下一尺以上ヲ算シ五六坪ノ室數四五ヲ有シ一部ハ疊ヲ敷キ一部ハ板ノ間トナス光線ノ射入及空氣ノ流通モ充分ナリ(字管池)尤モ重病者ハ皆納戸ト稱スル矮小ニシテ暗瞻タル室ニ横臥スト雖ソハ自動不能トナリシカ爲メニ茲ニ移サレシモノニシテ(父母兄弟ハ家ノ耻辱トナシ人ノ見ンコヲ恐レ自ラモ亦羞チテ人ニ逢フヲ厭フカ爲メ)本病ノ増悪ヲ助クベキ一要件ナルベキモ直ニ本病ノ發生ニ關係アリト云フ可ラサルナリ

家屋ノ周圍ハ皆多少ノ空地ヲ有スルモ喬木ヲ以テ圍繞セラレ直射光線ヲ受クルコト少ナキカ故ニ各々一小丘上ニ建テラレ小急坂ヲ以テ通路トナシ(特ニ管池ニ於テ然リ)排水ノ障害ナキガ如シト雖モ乾燥ノ不充分ナルヤ明ナリ衣服ノ關係 衣服モ普通山間ノ農民ト變狀ナク特別ニ軀幹四肢ヲ緊迫スルモノヲ着用スルコトナシ但シ重病者ハ皆

板ノ間ニ吳座ヲ敷キ裸体ニテ横臥シ上ニ衣ヲ被フノミ枕ハ多ク木枕ヲ用ユト雖モ此等ハ皆農民ノ常態ニシテ奇特スベキモノニ非ズ

飲食物 食品ハ米及麥ヲ主食トシ副食物トシテハ常ニ野菜特ニ漬物ヲ用ヒ又多ク馬鈴薯ヲ取ルモ本病ナキ附近ノ他村モ亦之ト同ク其間ニ特別ノ差異ナシト云フ然レモ肉食ハ極メテ稀レニシテ甚タシキハ二十才ノ患者ニシテ未タ嘗テ魚類ヲ口ニセシコナシト訴ヘシモノアリ又之ヲ食用スト云フモ多クハ鯨及糠漬鰯ニシテ夫スラ年十數回ニ過キスト云フ中ニハ魚肉ヲ取ルコト屢々ナリト云フモノアルモ尙且本年春ヨリ鰯何回鯖何回ニシテ十指ヲ屈スルニ過キサルナリ間々鶏ヲ飼フモノアルモ卵ヲ食スルノミニシテ其肉ヲ膳ニ上スコトナシ況ンヤ獸肉ヲヤ由之觀是肉食ノ不足ハ他ノ山間ノ村落ニ比シテ或ハ甚タシキニハ非スヤ但シ此肉食ノ不足ハ地ノ不便ナルニ非ズシテ求メテ之ヲ買ハサルガ爲メナリ其他附近ノ醫師ノ言ニヨレバ管池ノ如キハ醬油ヲ用ユルコト年一、二回ニ過キズ多クハ味噌ノ「垂レ」(液狀部分)ヲ以テ代用スト云フ余等一行モ管池千石ノ二村ニ於テ調味ノ異様ナルヲ自覺セリヨリテ食物ノ一汎ヲトスルニ足ラン

飲料水ハ泉水或ハ井水ヲ用ユ水質惡カラサルガ如キモ(定性定量分析ヲ實行スル暇ナカリキ)樋及井戸ノ構造不備ナルガ爲メ塵埃ヲ混スルコト多シ

茶酒ハ差違ナシ

貧富ノ度 一汎ニ貧村ナラズ特ニ管池ノ如キハ羽咋郡ノ富村ニ算ヘラル、ト云フ但シ農家ノ富ナルモノハ山林田畑ノ富ニシテ金銀ノ富ニアラザルカ故ニ山村ノ富者ハ時ニ都市ノ貧者ヨリモ生活程度ニ於テ或ハ低キコアリト云フモ強テ酷評ニアラサルベシ

小兒ノ哺育法 小兒ノ營養物ハ主トシテ母乳ニシテ母乳不足ナレバ良キハ「コンデンスミルク」悪キハ粥飯ヲ以テ之ヲ補ヒ又母乳多キモ早クヨリ馬鈴薯其他ノ間食ヲ與フト云フ此等ハ別ニ他地方ト甚タシキ差違ナキモ茲ニ小兒榮養ニ甚タシキ影響ヲ及ホス一事アリ即チ母ノ山ニ行キ田ニ出ズルニハ小兒ヲ「ツブラ」ト名ツクル藁籠ニ入レ之ヲ他ノ長兒ニ一任シ置キ朝食後ヨリ晝食時迄哺乳セシメ晝食時歸リテ哺乳セシムレバ又夕刻迄出テ、歸ラズ其間兒餓ニ泣クキハ子守ハ煮タル馬鈴薯ノ如キ不消化物ヲ嵌マシムルヲ常トス如此弊害ハ他ノ農民ニモモトヨリ之アリト雖比較的隣家近キカ爲メニ多少大人ノ保護ヲ受クルト得ルノ故ヲ以テ管池地方ノ如キ甚タシキ慘狀ニ至ラズト或醫ハ曰ヘリ又參考ノ價値アルベシ實際余等カ患者ノ母ニ就テ聞クトコロニヨルモ母乳不足ナルモノ甚タ多キカ如シ(プロトコル參照)其他「ツブラ」ニ容レテ放置スルカ故ニ從テ戶外ノ光線及空氣ニ觸ル、コトノ少キコト亦推想シ得ベキナリ

血族結婚ノ關係 管池ニ於ケル調査ニヨレバ夫婦六十二對アリテ其中血族結婚ト本病トノ關係ハ左ノ如シ

夫婦六十二對

血族結婚二十一對 叔父姪添二對 從兄弟添十對 復從兄弟添九對

從兄弟添十對 中患者ヲ出セルモノ四對 約二九%

復從兄弟添九對 中患者ヲ出セルモノ一對

非血族結婚四十一對 中患者ヲ出セルモノ十五對

〔約三六%〕

由之觀是血族結婚夫婦ヨリ患者ヲ出スコト非血族結婚夫婦ニ比シテ却テ小數ナルヲ知ル則血族結婚ハ本病發生ニ關係ナキヤ明ナリ

子孫繁殖ノ模様 是詳細ニ探知セサリシモ概シテ多産ナルガ如ク七八回ノ分娩ヲ重ヌルモノ多シ然レ本病ニヨリ若シクハ他ノ傳染病仮令ハ麻疹百日咳等ニヨリテ死亡スルモノ亦比較的多キカ故ニ人口ニ著シキ増減ヲ見ズ又難産モ比較的多カラズト云ス

一般村民ノ健康状態 概シテ大人ハ強健ナルモノ多ク兵役ニ従事スルモノ亦比較的多シ特ニ男子ハ女子ヨリ疾病ニ罹ルコト少ナキガ如シ余等滯在中診察ヲ乞ヒシモノハ主トシテ女子ニシテ男子ハ稀レナリキ本病以外ノ疾病中比較多キモノハ關節及筋肉痠麻質私ナリトス

職業ノ關係 男女トモ總テ農業ニ従事ス只管池ニハ箕ヲ副産物トシテ製造シ産額モ少カラサルヲ以テ坐業ニ就クコト他村ノ農民ヨリ或ハ多カルベシ又一部少女ハ機業ニ従事スルモ他ニ比シテ少數ナルガ如シ

流行病及地方病ノ關係 本病以外ノ流行病及地方病ニ就テハ特別ニ記載スル程ノコトナク僻村醫療ヲ盡サ、ル等ノ事情アルガ故ニ百日咳麻疹ニヨリテ死スルモノ甚タ多キガ如シ痠麻質私ノ多キコト已ニ之ヲ述ベタリ
家畜動物 トシテハ多ク馬ヲ飼フモ牛ハ一頭モナシ鶏犬猫ハ多カラサルモ問々之ヲ飼養スルヲ見ル

第三章 本病發生ノ由來

本村民ノ談ニヨレバ本病ノ人ノ注意ニ上リシハ十年以來ニシテ其以前ニハ絶無ナリシヤ否ヤハ不明ナルモ少ナクトモ十年以來増加セシヤ明ナリト余等ガ實驗セル二十二歳ノ患者ハ十二歳頃ニ發病セリト訴フルヲ以テ見レバ拾年前ニモ己ニ本病ノ存在セシヲ推測シ得ベシ然レモ拾年以來病數増加セシカ、モシクハ病勢變惡シテ人目ヲ惹キシモノト見做スノ至當ナルヲ信スルナリ而シテ今日迄附近ノ醫師ハ痠麻質私ト見做シ村民モ之ヲ信シ重症ノモノハ業病ト名ツケ治癒不可能トナシテ放置シ、輕症ノモノハ自然治癒ヲナスヲ以テ求メテ醫療ヲ加ヘサリシカ如シ加之地ノ

總計	合 計		北志雄村		清水原		福水		神子原		千石	
	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男
	一	一								一		
九	六三								一	二	二	
八	二六								一	三	一	
七	六一						一		二	一	二	
五	五								二		一	
二	一一						一			一		
三	二一									一	一	
一	一											
三	二一								二			
二	一一								一	一		
一	一											
三	三									一		
三	三											
一	一						一					
一	一											
二	二											一
一	一											
五三	三九	十四	二	二	二	二	二	二	十三	九	六	一

元來余等ノ得タル材料ハ主トシテ越野警察醫カ戸口調査ニヨリテ發見シタルモノナルカ其中ニ疑ハシキモノハ之ヲ除去シタルモノアリ或ハ又自ラ求メテ診ヲ乞ヒシカ爲メニ同病發見セラレテ之ニ加算セシモノアリ(少數)故ニモトヨリ當局者ノ調査數ト符合セサルベク又之ヲ以テ同地方患者ノ總數ト見做ス可ラサルナリ從テ人口及戸數ニ對スル患者ノ%數ヲ得ル能ハサレ凡人口及戸數ニ比シテ同病者ノ甚タ多キコトハ確カナル事實ト云フヲ得ルナリ特ニ管池ノ如キハ約每二戸ニ一人ノ患者アリト云フヲ得ベキナリ

男女別ニ於テハ云フ迄モナク女性ニ甚タ多數ニシテ七三、〇%ヲ示シ殆ント比較スベクモアラズト雖モ又男性ニモ甚タ稀有ナリト云フ可ラズ特ニ四歲以下ニハ其總數二十五名中十人ハ男兒ナルヲ以テ四〇、%ニ上ルカ故ニ本病ハ好シテ女子ヲ侵スモノナリト雖モ男子モ亦四歲以下ニハ比較的屢々之ニ罹モノト云フベシ但シ四歲以上ニ至レバ男兒ノ頗ニ減少シテ二十八人中僅ニ四人ニ過キズ則一四、二%ヲ出セルハ或ハ女子カ長ク本病ニ對スル特異質ヲ有スルニヨルカ或ハ男兒カ本病ニ罹レルモ早ク治癒モシクハ輕快スル傾向ヲ有スルニヨルカ未タ明カナラサルナリ

年齢別ニ於テ一年以上六年以下ニ尤モ多クシテ前表ニ見ユルトコロノ一年乃至五年ノ患者數ヲ合計スレバ三十名ヲ得全數ノ五六、六%ニシテ則半數以上ニ達ス故ニ本病ハ一般發育期ノモノヲ侵スト雖モ特ニ發育ノ最旺盛ナル時期ニ來ルト云フヲ得ベシ但シ一才以内ニ甚タ少キハ恐ラクハ變化未タ着明ナラサルカ爲メ指摘シテ以テ余等ノ調査ニ付セサルニヨルモノニシテ決シテカク稀有ナルニハ非サルガ如シ

實驗 例……………通覽ノ便ヲハカリ之ヲ表示ス就テ參照セヨ、

此「プロトコル」ニハ紙面ノ都合ニヨリ多クノ辭句ヲ省畧セリ又氏名ハ男性ニハ○女性ニハ△ヲ以テ抹字セリ
年齢欄以外ノ年齢ハ數ヘ年ナリトス

第五章 症狀ニ對スル觀察

前「プロトコル」ハ皆余等ガ「ラヒチス」ト斷定シタルモノニ屢スルモ或ハ精細ヲ欠キ或ハ調査條項一齊ナラズ加之ナラズ余等ガ注意ニ上ラサル杜撰ノ点ナキヲ保ス可ラズト雖モコハ出張先キニ於テ急キ調製セント且登山ノ議咄嗟ノ間ニ成リ豫メ方針ヲ一ニスルヲ得サリシ不得止事情ノ他稀有ナル疾病ナルガ故ニ之ニ關スル余等ノ智識ノ不充分ナルコトモ其原因ヲナスナリ讀者之ヲ諒セヨ

管池ニ於ケル患者ノ名相同キモノ多シ之レ單純ナル同村民ハ女子ノ名トシテはつゝ、やつゝ、みつゝ、ノ三種ノ一ヲ撰フヲ以テ足レリトスルモノ多キカ故ナリ

年齢ハ僻村人ノ通弊トシテ生後規則期間内ニ户籍ノ登録ヲ怠ルモノ多ク數月ノ後ニ及ンテ始メテ出産届ヲナスモノスラアルヲ知ルガ故ニ户籍年齢ノ他ニ父母ノ訴フル實際年月ヲ記載シ「プロトコル」ニ關スル統計ハ主トシテ此實際ノ年齢ニ準據セリ而シテ本病ノ性質ヲ判定スルニ必要アルヲ以テ統計ハ更ニ之ヲ四年以下ト四年以上ニ分テリ

(原著及實驗)

己往症ノ記載ハ甚タ簡略ニ失スルモ之レ一ハ農民ノ常トシテ己カ兒童ニ於ケル觀察ノ緻密ナラサルヨリ其記憶ニ存スルモノ少ク且不確實ナルト一ハ余等ガ短時日ニ多數ノ調査ヲ了ヘント欲セシニヨリ遂ニ問診ノ等閑ニ付セラレシモノアリシガ爲メナリ遺憾ナリト雖亦是非モナキナツ

一般症狀(一般症狀トハ名ノ如ク他ノ疾病ニモ來ルモノニシテ則不確實ヲ意味スルナリ)ノ記載モ又讀者ニ満足ヲ與フル能ハサルハ余等ノ自認スル所ナレモ是亦私情時日ニ拘泥スルノ不得止ニ出テシモノニ係ハリ徒ニ之ヲ輕視シテ簡畧ニ流レタルニ非サルナリ故ニ己往症及一般症狀ノ統計ハ記載アルモノ、ミニ準據シ記載ナキモノハ除外セリ從テ%數モ記載數ニ其比例ヲ取リシナリ之ニ反シテ特異症狀ハ余等ガ注目ヲ怠ラサリシ所ナルガ故ニ記載ノ一ニアリテ他ニナキハ該患者ニ其症狀ヲ認メサリシモノトシテ大ナル過ナキヲ信ズ故ニ之ガ統計ハ全患者數ニ比較シテ%數ヲ算出セリ

プロトコルノ患者數表

一年以内	一年以下	一年以上	以上小計	四年以下	七年以上	十五年以上	廿五年以上	以上小計	合計
一	二四	二五	一〇	一四	四	二六	五三		

一般症狀表

(記トハ「プロトコル」ニ記載アルモノ)
(有トハ其症狀ヲ具フルモノ)

各 症 状	年		以上小計(%)	七年以上	十五年以上	廿五年以上	以上小計(%)	合計(%)					
	一年以内	一年以上											
皮膚蒼白	有記	一一	一九	八	九四(五〇)	二〇	一〇	一九	三四	八(四七)	二二	一七(三五)	四三

精神障害	齒牙發生遲滯	ク見ユルモノ 年齢ニ比シテ若	步行遅延	毛髮異常	脾腫	腹部膨滿	氣管枝加答兒	腺腫	發汗	步行時疼痛	消化障害	筋榮養不全
有記	有記	有記	有記	有記	有記	有記	有記	有記	有記	有記	有記	有記
	八五	三二	二六	三	九二	一〇	三二	三三	五八		一七	八九
	八(五三)	三(二九)	一六(七四)		一〇(八三)	一〇(一〇〇)	一三(一〇〇)	三(一〇〇)	五(六二)		一(四三)	八(四二)
	二	六	四		一	三	三	三	一		三	二
	四	八	五		一	二	七	四	一		九	四
		三			五	一	三	三	三		四	三
	六(六〇)	一三(六〇)	九(四五)		一(一一)	三(二五)	六(七五)	一六(八八)	一〇(一〇〇)	五(四五)	一六(八八)	二(五五)
	一四(五六)	一六(五〇)	二五(六〇)		一(七六)	一三(五四)	一六(八八)	二九(九三)	一三(一〇〇)	一〇(五二)	一六(八八)	一五(三三)

(原著及實驗)

特異症狀表

骨系各症狀	年		齡		合計(%)
	一年以內	一年以上	七年以上	十五年以上	
クラニオターベ	無有	無有	一〇	四	一(二八)
頭四角形及角張ルモノ	無有	無有	四六	一四	二六(四九〇)
下顎犬齒部屈折	無有	無有	三七	一三	二七
ローゼンクランツ	無有	無有	一九	四	三〇(五六六)
側胸壁壓平	無有	無有	五五	四	四二(七九二)
中胸部膨出	無有	無有	三三	一四	一四(二六四)
鎖骨ノ變形	無有	無有	三七	四	二六(四九〇)
肩胛骨ノ變形	無有	無有	七三	一三	三三(三三六)
脊柱彎曲	無有	無有	三七	四	三九(五四七)
骨盤骨變狀	無有	無有	五五	一三	二九(三九六)
前膊下端膨大	無有	無有	七三	一三	三二(三九六)
			三	一	三(一八)
			五	一	六(一〇〇)
			九	一	一〇(一四〇)
			一六	一	一七(二四〇)
			二四	一	二五(三三〇)
			三二	一	三三(四三〇)
			四一	一	四二(五六〇)
			五〇	一	五一(六六〇)
			六八	一	六九(九〇〇)
			八四	一	八五(一一二〇)
			一〇〇	一	一〇一(一三二〇)
			一二二	一	一二三(一五六〇)
			一四〇	一	一四一(一八〇〇)
			一六八	一	一六九(二一六〇)
			二〇四	一	二〇五(二六四〇)
			二四二	一	二四三(三一〇〇)
			二八〇	一	二八一(三三六〇)
			三二二	一	三二三(四一四〇)
			三六八	一	三六九(四六四〇)
			四一四	一	四一五(五三〇〇)
			四六〇	一	四六一(五八四〇)
			五〇六	一	五〇七(六五四〇)
			五五二	一	五五三(七〇八〇)
			六〇〇	一	六〇一(七六八〇)
			六四八	一	六四九(八三二〇)
			六九六	一	六九七(八九六〇)
			七四四	一	七四五(九六〇〇)
			七九二	一	七九三(一〇二四〇)
			八四〇	一	八四一(一〇八八〇)
			八八八	一	八八九(一二〇〇)
			九三六	一	九三七(一二二四〇)
			九八四	一	九八五(一二八八〇)
			一〇三二	一	一〇三三(一三五一〇)
			一〇八〇	一	一〇八一(一三六八〇)
			一一二八	一	一一二九(一四三二〇)
			一二七六	一	一二七七(一五九六〇)
			一三二四	一	一三二五(一六六〇〇)
			一三七二	一	一三七三(一七二四〇)
			一四二〇	一	一四二一(一七八八〇)
			一四六八	一	一四六九(一九〇四〇)
			一五一六	一	一五一七(一九六八〇)
			一五六四	一	一五六五(二〇三二〇)
			一六一二	一	一六一三(二〇九六〇)
			一六六〇	一	一六六一(二一六〇〇)
			一七〇八	一	一七〇九(二二二四〇)
			一七五六	一	一七五七(二二八八〇)
			一八〇四	一	一八〇五(二三五二〇)
			一八五二	一	一八五三(二四一六〇)
			一九〇〇	一	一九〇一(二四八〇〇)
			一九四八	一	一九四九(二五四四〇)
			一九九六	一	一九九七(二六〇八〇)
			二〇四四	一	二〇四五(二六七二〇)
			二〇九二	一	二〇九三(二七三六〇)
			二一四〇	一	二一四一(二八〇〇〇)
			二一八八	一	二一八九(二八六四〇)
			二二三六	一	二二三七(二九二八〇)
			二二八四	一	二二八五(二九九二〇)
			二三三二	一	二三三三(三〇五六〇)
			二三八〇	一	二三八一(三一二〇〇)
			二四二八	一	二四二九(三一八四〇)
			二四七六	一	二四七七(三二四八〇)
			二五二四	一	二五二五(三三一二〇)
			二五七二	一	二五七三(三三七六〇)
			二六二〇	一	二六二一(三四四〇〇)
			二六六八	一	二六六九(三五〇四〇)
			二七一六	一	二七二一(三五六八〇)
			二七六四	一	二七六九(三六三二〇)
			二八一二	一	二八二一(三七九六〇)
			二九〇〇	一	二九〇一(三八六〇〇)
			二九四八	一	二九四九(三九二四〇)
			二九九六	一	二九九七(三九八八〇)
			三〇四四	一	三〇四五(四〇五二〇)
			三〇九二	一	三〇九三(四一一六〇)
			三一四〇	一	三一四一(四一八〇〇)
			三一八八	一	三一九一(四二四四〇)
			三二三六	一	三二三七(四三〇八〇)
			三二八四	一	三二八五(四三七二〇)
			三三三二	一	三三三三(四四三六〇)
			三三八〇	一	三三八一(四五〇〇〇)
			三四二八	一	三四二九(四五六四〇)
			三四七六	一	三四七七(四六二八〇)
			三五二四	一	三五二五(四六九二〇)
			三五七二	一	三五七三(四七五六〇)
			三六二〇	一	三六二一(四八二〇〇)
			三六六八	一	三六六九(四八八四〇)
			三七一六	一	三七二一(四九四八〇)
			三七六四	一	三七六九(五〇一二〇)
			三八一二	一	三八二一(五〇七六〇)
			三九〇〇	一	三九〇一(五一四〇〇)
			三九四八	一	三九四九(五一〇四〇)
			三九九六	一	三九九七(五一六八〇)
			四〇四四	一	四〇四五(五二三二〇)
			四〇九二	一	四〇九三(五二九六〇)
			四一四〇	一	四一四一(五三六〇〇)
			四一八八	一	四一八九(五四二四〇)
			四二三六	一	四二三七(五四八八〇)
			四二八四	一	四二八五(五五五二〇)
			四三三二	一	四三三三(五六一六〇)
			四三八〇	一	四三八一(五六八〇〇)
			四四二八	一	四四二九(五七四四〇)
			四四七六	一	四四七七(五八〇八〇)
			四五二四	一	四五二五(五八七二〇)
			四五七二	一	四五七三(五九三六〇)
			四六二〇	一	四六二一(六〇〇〇〇)
			四六六八	一	四六六九(六〇六四〇)
			四七一六	一	四七二一(六一二八〇)
			四七六四	一	四七六九(六一九二〇)
			四八一二	一	四八二一(六二五六〇)
			四九〇〇	一	四九〇一(六三二〇〇)
			四九四八	一	四九四九(六三八四〇)
			四九九六	一	四九九七(六四四八〇)
			五〇四四	一	五〇四五(六五一二〇)
			五〇九二	一	五〇九三(六五七六〇)
			五一四〇	一	五一四一(六六四〇〇)
			五一八八	一	五一九一(六七〇四〇)
			五二三六	一	五二三七(六七六八〇)
			五二八四	一	五二八五(六八三二〇)
			五三三二	一	五三三三(六八九六〇)
			五三八〇	一	五三八一(六九六〇〇)
			五四二八	一	五四二九(七〇二四〇)
			五四七六	一	五四七七(七〇八八〇)
			五五二四	一	五五二五(七一五二〇)
			五五七二	一	五五七三(七十二八〇)
			五六二〇	一	五六二一(七三九二〇)
			五六六八	一	五六六九(七四五六〇)
			五七一六	一	五七二一(七五二〇〇)
			五七六四	一	五七六九(七五八四〇)
			五八一二	一	五八二一(七六四八〇)
			五九〇〇	一	五九〇一(七七一二〇)
			五九四八	一	五九四九(七七七六〇)
			五九九六	一	五九九七(七八四〇〇)
			六〇四四	一	六〇四五(七九〇四〇)
			六〇九二	一	六〇九三(七九六八〇)
			六一四〇	一	六一四一(八〇三二〇)
			六一八八	一	六一八九(八〇九六〇)
			六二三六	一	六二三七(八一六〇〇)
			六二八四	一	六二八五(八二二四〇)
			六三三二	一	六三三三(八二八八〇)
			六三八〇	一	六三八一(八三五二〇)
			六四二八	一	六四二九(八四一六〇)
			六四七六	一	六四七七(八四八〇〇)
			六五二四	一	六五二五(八五四四〇)
			六五七二	一	六五七三(八六〇八〇)
			六六二〇	一	六六二一(八六七二〇)
			六六六八	一	六六六九(八七三六〇)
			六七一六	一	六七二一(八八〇〇〇)
			六七六四	一	六七六九(八八六四〇)
			六八一二	一	六八二一(八九二八〇)
			六九〇〇	一	六九〇一(八九九二〇)
			六九四八	一	六九四九(九〇五六〇)
			六九九六	一	六九九七(九一二〇〇)
			七〇四四	一	七〇四五(九一八四〇)
			七〇九二	一	七〇九三(九二四八〇)
			七一四〇	一	七一四一(九三一二〇)
			七一八八	一	七一八九(九三七六〇)
			七二三六	一	七二三七(九四四〇〇)
			七二八四	一	七二八五(九五〇四〇)
			七三三二	一	七三三三(九五六八〇)
			七三八〇	一	七三八一(九六三二〇)
			七四二八	一	七四二九(九六九六〇)
			七四七六	一	七四七七(九七六〇〇)
			七五二四	一	七五二五(九八二四〇)
			七五七二	一	七五七三(九八八八〇)
			七六二〇	一	七六二一(九九五二〇)
			七六六八	一	七六六九(一〇〇一六〇)
			七七一六	一	七七二一(一〇〇八〇〇)
			七七六四	一	七七六九(一〇一四四〇)
			七八一二	一	七八二一(一〇二〇八〇)
			七八六〇	一	七八六一(一〇二七二〇)
			七九〇八	一	七九〇九(一〇三三六〇)
			七九四八	一	七九四九(一〇四〇〇〇)
			七九九六	一	七九九七(一〇四六四〇)
			八〇四四	一	八〇四五(一〇五二八〇)
			八〇九二	一	八〇九三(一〇五九二〇)
			八一四〇	一	八一四一(一〇六五六〇)
			八一八八	一	八一九一(一〇七二〇〇)
			八二三六	一	八二三七(一〇七八四〇)
			八二八四	一	八二八五(一〇八四八〇)
			八三三二	一	八三三三(一〇九一二〇)
			八三八〇	一	八三八一(一〇九七六〇)
			八四二八	一	八四二九(一〇一〇四〇)
			八四七六	一	八四七七(一〇一六八〇)
			八五二四	一	八五二五(一〇二三二〇)
			八五七二	一	八五七三(一〇二九六〇)
			八六二〇	一	八六二一(一〇三六〇〇)
			八六六八	一	八六六九(一〇四二四〇)
			八七一六	一	八七二一(一〇四八八〇)
			八七六四	一	八七六九(一〇五五二〇)
			八八一二	一	八八二一(一〇六一六〇)
			八九〇〇	一	八九〇一(一〇六八〇〇)
			八九四八	一	八九四九(一〇七四四〇)
			八九九六	一	八九九七(一〇八〇八〇)
			九〇四四	一	九〇四五(一〇八七二〇)
			九〇九二	一	九〇九三(一〇九三六〇)
			九一四〇	一	九一四一(一〇一〇〇〇)
			九一八八	一	九一九一(一〇一六四〇)
			九二三六	一	九二三七(一〇二二八〇)
			九二八四	一	九二八五(一〇二九二〇)
			九三三二	一	九三三三(一〇三五六〇)
			九三八〇	一	九三八一(一〇四二〇〇)
			九四二八	一	九四二九(一〇四八四〇)
			九四七六	一	九四七七(一〇五四八〇)
			九五二四	一	九五二五(一〇六一二〇)
			九五七二	一	九五七三(一〇六七六〇)
			九六二〇	一	九六二一(一〇七四〇〇)
			九六六八	一	

大轉子膨大	大腿骨下端膨大	下腿骨上端膨大	下腿骨下端膨大	X 脚	O 脚	脛骨彎曲	關節屈曲強直	關節過度展伸	扁手足	下肢ノ短縮	步行變狀及不能
無有	無有	無有	無有	無有	無有	無有	無有	無有	無有	無有	無有
- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
〇四	七七	六八	九五	九五	七七	〇四	二三	二四	三一	三一	三一
一四(五六〇)	一七(六八〇)	一八(七二〇)	一五(六〇〇)	五(二〇〇)	七(二八〇)	一四(五六〇)	三(二二〇)	二五	一(四〇〇)	一(四〇〇)	二(四〇〇)
〇	〇	一九	〇	五五	八二	三七	〇	九一	七三	八二	四六
八六	二二	三一	六八	五九	四	二三	二二	三一	九五	二三	九五
四	四	四	一三	一三	四	三一	一三	四	三一	三一	三一
三〇(七二四)	二六(九二八)	二四(八五七)	二(七五〇)	一七(六〇七)	二(七〇〇)	二(三九二)	五(一七八)	二(七〇〇)	九(三二一)	六(二二四)	一四(五〇〇)
三(四一五)	四(二七九)	三(六七九)	三	三(四一五)	一(二六九)	二五(四七一)	八(一五〇)	二(三七)	一〇(一八八)	七(一三三)	二五(四七一)
九	〇	二	七	三	四	二八	四	五	四	四	六

体格計測表

(原著及實驗)

胸圍	頭圍			體重			身長			年		
	大ナル	小ナル	適當ナル	大ナル	小ナル	適當ナル	多ナル	少ナル	適當ナル		短ナル	長ナル
不明ナルモノ	ナナルモノ	ナナルモノ	ナナルモノ	不明ナルモノ	ナナルモノ	ナナルモノ	不明ナルモノ	ナナルモノ	ナナルモノ	不明ナルモノ	ナナルモノ	一年以内
ナナルモノ	ナナルモノ	ナナルモノ	ナナルモノ	ナナルモノ	ナナルモノ	ナナルモノ	ナナルモノ	ナナルモノ	ナナルモノ	ナナルモノ	ナナルモノ	一年以下以上
ナナルモノ	ナナルモノ	ナナルモノ	ナナルモノ	ナナルモノ	ナナルモノ	ナナルモノ	ナナルモノ	ナナルモノ	ナナルモノ	ナナルモノ	ナナルモノ	以上小計
ナナルモノ	ナナルモノ	ナナルモノ	ナナルモノ	ナナルモノ	ナナルモノ	ナナルモノ	ナナルモノ	ナナルモノ	ナナルモノ	ナナルモノ	ナナルモノ	七年以下以上
ナナルモノ	ナナルモノ	ナナルモノ	ナナルモノ	ナナルモノ	ナナルモノ	ナナルモノ	ナナルモノ	ナナルモノ	ナナルモノ	ナナルモノ	ナナルモノ	七年以下以上
ナナルモノ	ナナルモノ	ナナルモノ	ナナルモノ	ナナルモノ	ナナルモノ	ナナルモノ	ナナルモノ	ナナルモノ	ナナルモノ	ナナルモノ	ナナルモノ	十五年以下以上
ナナルモノ	ナナルモノ	ナナルモノ	ナナルモノ	ナナルモノ	ナナルモノ	ナナルモノ	ナナルモノ	ナナルモノ	ナナルモノ	ナナルモノ	ナナルモノ	以上小計
ナナルモノ	ナナルモノ	ナナルモノ	ナナルモノ	ナナルモノ	ナナルモノ	ナナルモノ	ナナルモノ	ナナルモノ	ナナルモノ	ナナルモノ	ナナルモノ	合計(%)

但シ一般症狀表中ノ消化障害欄ハ現症ノ食思減損下痢等ヲ算ヘシモノニシテ既往ノモノハ之ヲ除ケリ歩行時ノ疼痛欄ハ之ニ反シテ已往現在共ニ加算シ腺腫欄ニハモトヨリ扁桃腺、腸間膜腺ヲモ含メリ又氣管枝加答兒ニハ二人結核ヲ合併セシヲモ加算シ齒牙發生及初行歩期ハ本邦人ニ於ケル三島氏ノ調査ヲ標準トシ「年齢ニ比シテ若ク見ユ」ト云フハ余等ノ習慣ニ從ヒ數ヘ年ヲ取レリ精神状態ニ付テハ勿論心理學的精査ヲ成サス只一汎問答檢査ニヨレリ

特異症狀表中ノ骨盤骨變狀トハ單ニ肉眼上ノ變形ニシテ計測ノ比較ニアラズ又「プロトコル」ニ鳩胸ト稱スルモ

ノハ側胸壓平ト中胸膨出ノ二者ヲ有スルモノナルヲ以テ之ヲ二欄ニ算入セリ下肢短縮欄ニハ左右ノ比較上相違アルモノ、ミヲ擧ケテ兩下肢平等ノ短縮ハ身長短ヲ以テ推想シ得ルカ故ニ之ヲ除ケリ

体格計測表ノ身長、体重、頭圍、胸圍、ハ三島博士ノ本邦人調査成績ヲ標準トセリ

以上ノ統計ハ余等カ單ニ本病ノ通性ヲ知ランガ爲メ而シテ又診斷ノ證據ヲ得ンカ爲メニ調製セシモノニシテ此ノ患者數表ニ見ルガ如ク年齡ニ對スル患者數ハ四年以上ト四年以下ニ於テ大ナル差違ナシ則チ歐洲ノ「ラヒチス」ニ比シテ四年以上ノモノ甚ダ多キガ如キモ之レ未ダ病性ノ絕對的相違ヲ意味スル能ハサルナリ何トナレバ仮令稀レナリト云ヘ彼レニモ亦遲發型アレバナリ(尙診斷ノ章ニ於テ詳論スベシ)兎モ角モ二十五才ヲ超ユルモノ一人モナク悉ク身體發育期ノモノニシテ特ニ主トシテ拾五年以下ニアルヲ以テ宜シク小兒病ト見做スベキモノナリ而シテ一般症狀及固有症狀ノ一群ハ其該當表ニ見ルガ如ク恰モ「ラヒチス」ノ症狀群ニ一致セリ然レモ二三其趣キヲ異ニスル点ナキニアラサルヲ以テ余等尙少シク詳細ニ之ヲ觀察セントス則チ

一般症狀表ノ

「皮膚蒼白」ハ記載アルモノ、全數ニ比シテ三九、五%ヲ算シ成書ノ「ラヒチス」記載ニ於ケルカ如キ必存ノ症狀ニ屬セサルカノ觀アリト雖モ余等ノ患者ハ四歲以上ノモノ甚ダ多數ニシテ其全數ヲ取リテ直ニ歐洲ノ四歲以下ノモノト比較スルハ或ハ當ヲ失スルナランカ何トナレバ年齡ノ相違ハ一方ニ於テ榮養等ノ相違ヲ意味シ得ベケレハナリ故ニ更ニ之ヲ四年以下ト四年以上ノ二種ニ分テ比例ヲ取レバ皮膚蒼白ナルモノ甲ハ四五、〇%ヲ得乙ハ三四、七%トナリ幼者ニ於テ本症狀ヤ、多キヲ見ルベシ但シ余等ハ此ノ四五、〇%モ尙歐洲ノ「ラヒチス」ニ比シテ少數ナルヲ感セサルニハ非サルモ彼ニアリテモ病勢ノ減退或ハ停止ノ期ニ於テハ榮養又快復スト云フヲ以テ余等ノ患者ニアリテモ

或ハ如此事態ノ存スルニハ非サルカ兎モ角此小計數ハ彼我ニ於ケル絶對的相違ヲ意味スルノ價值ヲ有スルモノト認ム可ラサルナリ

「筋榮養不全」モ全數ニ比シテ三三、三%ニ過キサル少數ナレモ之ヲ四年以下ニ算當スレバ四二、一%トナリ四年以上ハ約二七、〇%ニシテ甲ニ於テハ益々成書ノ記載ニ近ツクヲ見ルナリ

「消化障害」ハ全數四四、四%ニシテ同シク彼我ノ比較ニ於テ少數ナルヲ感スベシ加之四歲以下ニハ僅ニ一四、〇%トナリ四才以上ニ反ツテ五五、〇%ヲ見ルハ甚タ異トスベキカ如シト雖モ元來本欄ニハ唯現時ノ障害ノミヲ取り己往ノモノハ父母ノ訴大低不得要領ニ終リシヲ以テ算入セズ又現時ニ於テモ父母ハ之ヲ等閑ニ看過シ輕度ノ障害ハ「異常ナシ」ト訴フルヲアルヲ以テ余等ハ實際ノ消化障害ハ此%數ノ如ク少數ナラサルヲ信スルナリ故ニ余等ハ茲ニ本欄ノ計數ハ參考ノ價值甚タ少ナキヲ自白セントス

「歩、行、時、ノ、疼、痛」ハ%數ノ示ス所ニヨレバ自覺ヲ訴ヘ得ルモノハ殆ンド皆之アルガ如シ然レモ無痛ナルモノハ全ク記載ヲ畧セシヲ以テ記載アルモノハ大低有痛ヲ訴ヘシモノナリシニヨリ如此高キ比例ヲ得タルナリ故ニ之ハ全患者數ニ比較セバ却テ其真相ヲ得ルニ近キガ如シ則四歲以上ノ總數ニ對シテ五七、〇%ナリ又疼痛ノ度ハ甚タ輕度ニシテ勿論自發性ノモノナリ只運動ニ際ニシテ感スルノミ病機高度ニシテ強直ヲ來セルモノハ他動ニヨリテ劇痛ヲ發スレモ其疼痛ハ主トシテ變縮セル筋ニアリテ骨痛ニ基因スルコト少ナシ

「發汗」ハ數字ノ示ス如ク四年以下ノモノニ多ク四年以上ニハ少ナシ而シテ發汗部位ハ頭部ニ多キガ如シ「氣管支加答兒」ハ本病ニ於ケル常在症狀ノ一ナルガ如シ則記載數ニ比シテ八九三、五%トナリ全患者數ニ對シテモ五四、七%トナル而シテ加答兒ノ性ハ大低慢性ニシテ且輕度ナリ患者多クハ之ヲ自覺セズ

「腹部膨滿」モ記載數ニヨルヨリハ全患者數ニ比較スルヲ眞ニ近シトスルカ故ニ之ヨリ打算スレバ僅ニ約三〇、〇％ノ少數トナル然レモ之レ各年齢ヲ通算セシモノニシテ四年以下ニ改算セバ四〇、〇％ヲ得ベシ故ニ決シテ少ナカラサル症狀ノ一ニ屬スト云フベシ而シテ此膨滿ノ狀ハ皆恰モ蛙腹ニ似テ主トシテ瓦斯ニ基ク

「脾腫」ハ記載數ニ對シテ五四、〇％ヲ算シ中四年以下ニハ八三、〇％トナリ四年以上ニハ二五、〇％ヲ示ス又之ヲ總患者數ニ比セバ二四、〇％ニシテ中四年以下ニハ三六、〇％ヲ得四年以上ニハ五、六％ニ減スルヲ以テ本症ハ四歲以下ニハ甚タ屢々同伴スル症狀ニ屬スト云フベシ從ツテ歐洲「ラヒチス」ノ記載ニ近シト云フヲ得ベキナリ

「毛髮異常」ハ殆ント之ナキガ如キモ余等ノ患者ハ一歲以下ノモノ甚タ少ナキ故ニ之ヲ以テ成書ノ記載ト符合スルヤ否ヤヲ答フル能ハサルナリ

「歩行遲延」約六一、〇％ノ大數ニシテ全數ニ比スルモ尙四七、〇％ヲ得ベク以テ本病者ニ於ケル重要ナル症狀ナルヲ知ルベシ人或ハ此初行歩期ノ遲延ヲ彼ノ「ツブラ」ニ入ル、永キニ歸セントスルモノアルモソハ他地方ニ於ケル農民ニモ一般此ノ弊習アルヲ顧ミサルノ論ニシテ余等ハ寧ロ病變アルヲ以テ永ク「ツブラ」ニ籠居スルモノナラント考フ今一步ヲ讓リテ「ツブラ」ニ永ク安座スル爲メニ歩行障害ヲ來スコトアリトスルモ如此多數ノ歩行遲延ヲ致スモノトハ見做ス不能實ニ五六歲迄モ起立シ得サルモノ、如キハ單ニ如此器械的障害ヲ以テ説明スルヨリハ寧ロ筋骨ノ病機ニ歸スルヲ至當ナリト信スルナリ是又成書ノ記載ニ符合スト云フベシ

「年齢」ニ比シテ若ク見ユルモノ「五〇、〇％」アリ全患者數ニ比スルモ約三〇、〇％アリ亦以テ少ナカラサルヲ知ルベシ而シテ之ハ四才以下ヨリ四歲以上ニ多ク現ハル所ニシテ恐ラクハ年齢増加ト共ニ其對照ノ現著トナリシニヨルナラン

「齒牙發生遲滯」ハ五六、〇%ニシテ亦可成多キ症狀ニ屬ス之ヲ全患者數ニ比セハ僅ニ二六、〇%ニ過キスト雖モ両親ノ記憶ニ存セサルモノ多ク從ツテ記載ヲ欠クモノ少ナカラサルカ故ニ余等ハ記載數ニ於ケル%數ノ正確ニ近キヲ信スルナリ

「精神障害」ハ檢査モトヨリ麁畧ナリシト雖モ一モ之アルヲ見ズ却テ年齡体格ニ比シテ伶俐ナルガ如ク見ユルモノアリ之ヲ管池尋常小學校教師ニ聞クモ本病ノ學業ニ影響ナキヲ証セリ少ナクトモ本病ハ身體發育ニ甚タシキ障害アルモ直接ニ精神發育ヲ害セサルモノト斷言スルヲ得ベシ
特別症狀表ニ於ケル症狀ノ

「クラニオターベス」ハ數少ク%數ヲ擧ルノ價值ナキモ余等ハ之ヲ以テ「ラヒチス」ノ診斷ニ於ケル有力ナル發見ナリト信ス數ノ少ナキハ蓋シ一才未滿ノ患者甚タ少ナキガ故ナラン

「頭四角形及角張ルモノ」ハ四九、〇%ノ多キニ達ス(角張ルモノト記載セルハ各結節發育ノ過大ナルヲ意味スルナリ)以テ本病者カ「ラヒチス」性頭蓋變化ヲ有スルヲ証明スルヲ得ン

「下顎犬齒部屈折」トハ下顎齒槽突起ノ此ノ部ニ於テ普通ノ圓滿ナル彎形ヲ畫カズシテ角狀ヲ呈スルヲ斥スモノニシテ甚タシキハ直角ヲナス總患者ノ五六、%ハ之ヲ有セリ

「ローゼンクランツ」ハ本病者ニ殆ント通有ノ症狀ニシテ七九、二%ヲ示ス而シテ彼ノ鳩胸ヲ意味スル「中胸膨出」ノ四九、〇%ト共ニ本病特異症狀中重要ナル位置ヲ占ムルナリ故ニ余等ノ患者ハ現在或ハ既住ニ於テ胸廓ノ「ラヒチス」的病機ヲ有セシモノト斷言スルヲ得ベシ

「鎖骨變形」「肩胛骨變形」モ二二、六%―五四、七%ノ少ナカラサル症狀ナレト詳細ハ第二報告ニ讓リテ茲ニ贅セズ

「脊柱彎曲」骨盤骨變狀」モ亦三九、六%及二八、三%ニシテ脊柱ハ下胸推ノ後彎腰椎ノ前彎多ク且臥位ニ於テ正復スルモノ少カラズ骨盤ハ俯伏骨盤多ク二三「デメンテオン」ノ計測ニヨリテ其發育ノ全般ニ不全ナルモノアルヲ知レリ之レ等ハ皆「ラヒチス」ヲ以テ説明シ得ルモノナラン但シ肉眼検査ノミナラズ此ノ計測ヲ參照スルモ余等ハ尙所謂扁平骨盤若シクハY形骨盤ヲ發見セサリシナリ

「前膊」下」端膨大」大轉子膨大」大腿骨」下」端膨大」下腿骨」上」端膨大」下腿骨」下」端膨大」ヲ云フ迄モナク皆骨性ニシテ軟組織ハ更ニ之ニ關セズ型式モ大低同一ニシテ全汎ニ亘リ決シテ骨瘤ノ如ク限局性増殖ナラサルナリ而シテ何レモ六四、一%—八、一%ノ間ニアリテ本病者ノ最モ重要ナル症狀タリ又之ハ歐洲「ラヒチス」ノ圖畫ニ徴シテ相一致スルヲハ讀者余等ノ説明ヲ俟ツ迄モナク既ニ附録寫真圖ニ照シテ首肯スル所ナラン

「X」脚」ハ四一、五%ニシテ「O」脚」ノ一六、九%ニ比セバX脚ハ膝關節カ其骨端變化ニ由リテトルトコロノ普通變位ト見做スベク且ツO脚ハ四才以上ノモノニ比シテ四才以下ノモノニ甚タ多キヲ見レバ此等ノ變形ハ步行ト關係アルガ如シ從テ甲ハ原ヲ体重ニ探ルベク乙ハ因ヲ坐位或ハ「ツツラ」ノ壓迫ニ求ムベキモノナランカ然レモ詳細ノ論及ハ本報告ノ目的ニアラサルヲ以テ省畧スベシ

「脛骨彎曲」ハ主トシテ其下三分ノ一ニアリテ所謂「ゼーベルフホルミツヒ」ナリ而シテ四七、一%ノ多キニ達スルヲ以テ診斷上貴要ノ症狀ニ算フベキモノナリ

「關節」屈曲」強直」關節」過度」伸展」ハ比較的少クシテ特ニ強直ヲ有スルモノハ大低甚タ高度ナルモノ、ミナリキ故ニ余等ハ骨端ノ變形甚タシキニモ拘ラズ關節面ノ變形彼ノ畸形性關節炎ノ如ク多カラサルヲ信スルナリ

「扁手足」ハ一八、八%ニシテ亦甚タ少カラズト云フベシ而シテ茲ニ注意スベキハ其四才以下ニ稀有ニシテ四才以上

ニ多キコト是ナリ則歩行ト關係アルヤ明ナレヒ余等ハ茲ニ詳論スルノ暇ナシ

「下肢短縮」ハ己ニ記載セルガ如ク只左右相異ナルモノ、ミヲ擧ケテ全身ノ發育不全ニ伴フ兩脚平等ノモノハ之ヲ身長ノ條ニヨリテ推側スルニ止メタリ而シテ短縮ハ皆骨變形ノ強度ナル側ニアリシハ尤ヨリ其所ナルベシ

「歩行變狀及不能」欄ニハ滿一才以上ニシテ起立歩行不能ナルモノヨリ輕キハ歩行ニ際シテ膝關節ノ「シロツテルン」スルモノ迄ヲ網羅セリ而シテ余等ノ管見ニヨレバ此ノ變狀及不能ハ一部強直及疼痛ヲ以テ説明シ得ルモノアレヒ多クハ尙他ニ研究スベキ原因ノ存スルガ如シ然レモ之ハ他日ニ讓リテ今多クヲ云ハサルベシ數ノ示ス所ニヨレバ四七、一%ノ多キニ達ス

体格計測表ノ

「身長」ニ於テハ年齡ニ比シテ短ナルモノ最モ多ク五二、八%ヲ算スルヲ以テ本病ハ身体ノ發育ヲ障害スルモノナルヲ知ルベシ

「体重」モ亦年齡ニ比シテ少ナキモノ多ク同ク五二、八%ヲ算スルヲ以テ全身組織ノ増育ニ影響アルヲ知ルナリ

「頭圍」ハ比較的大ナルモノ甚タ多數ニシテ六二、二%ニ達セリ

「胸圍」モ亦比較的大ナルモノ多ク四七、一%ニ及ブ

如此身長ノ短ナルハ一部下肢骨ノ短縮及脊柱ノ彎曲ニ因スルモ全身各部ノ關係其宜シキヲ得テ一般ニ矮小ナルモノ又決シテ少カラサルナリ体重ノ減少モ又骨ノ發育不全ニ因スルノミナラズ確ニ諸組織平等ノ發育遲徐ニ坐スルモノアリ頭蓋ノ大ナルハ骨ノ變化ト並存スル腦水腫ニヨルベク實ニ歐州「ラヒチス」ノ記載ト相一致スルモノナレト獨リ胸圍ノ大ナルハ彼ノ「ラヒチス」ト相反ス則彼ニ於テハ病機ノ爲メ胸廓發育停止シテ胸圍小ナルモノ多シト云

ラ此ノ相違ニ付テハ余等未タ十分ノ解説ヲ有セズト雖モ亦之ヲ以テ彼我病性ノ相違ヲ証明スル程ニ重要ナルモノト見做サ、ルナリ蓋シ胸廓ノ變形ハ側壁壓平セラレテ橫徑減スト雖モ前壁膨出シテ縱徑ヲ増シ加之下口ハ漏斗狀ニ擴大スルヲ以テ乳頭位ノ胸圍ニ増大ヲ招クコト或ハ之レナキニアラサルベシ尙將來ノ研究ニ俟タントス又彼ノ頭圍ト胸圍ノ比較ハ重要視セラル、コナレモ余等ノ有スル參考書中ニハ相對照スベキ統計表ナク且余等ノ患者ノ如ク胸圍却テ増大スルモノニ於テハ比較ノ價值彼ノ如ク大ナラサルベキヲ以テ之ヲ他日ニ讓リ今其繁ヲ避ク

此他「熱」ハ急性氣管支加答兒ヲ合併セシモノ、外一人モ有之ヲ見ズ「呼吸」「脈膊」モ亦各患者ニ通有ノ著明變化ナカリキ又「尿糞」「血液」等ノ化學的若クハ顯微鏡的所見ハ當時尙研究中ニ屬ス

第六章

本病初發時期ニ於ケル管見

先ツ両親ガ病變ヲ發見セシ時期ニ就テ調査スルニヤ、明カナルモノ廿六人アリ他ノ廿七人ハ或ハ不明ナルカ或ハ診察ノ當時初メテ病變アルヲ發見セラレタルモノナリ此ノ廿六人ヲ發生當時ノ齡(數年)ヲ以テ現ハセハ左ノ如シ

發見年齡	數
二歲	3
三歲	1
四歲	2
五歲	4
六歲	2
七歲	1
八歲	1
九歲	0
十歲	2
十一歲	1
十二歲	4
十三歲	3
十四歲	0
十五歲	1
十七歲	1
計	26

此ノ數ニヨリテ見レバ二歲ヨリ十七歲迄殆ンド平等ニ發生スルガ如キ觀アリ彼ノ歐州「ラヒチス」一才以內ニ初發スルコト多ク四才以上ニ甚タ稀レナルモノト稍趣ヲ異ニスルガ如シ然レモ精細ニ觀察スレバ元來両親ノ信スル發病時期ナルモノハ唯本患者ノ誕生ヲ越ヘテ尙起立不能ナルカ或ハ歩行障害ヲ來スカ或ハ疼痛ヲ訴ヘシ時期ヲ指スモノニシテ必スシモ眞ノ初發時期ト見做サ、ル可ラサルモノニ非ラサルナリ余等ノ意見ニヨレバ本病ノ初發ハ多クハ遠ク

幼時ニ存スルモノニシテ實際身體發育ノ後期ニ初發セシモノハ而ク甚タ多カラサルヲ信スルナリ何トナレバ步行遲延ハ甚タ多數ノ症狀ニシテ少クトモ患者ノ四七、〇%ハ己ニ此ノ時期ニ於テ發育障害ヲ來ス病機ノ存在セシコトヲ推測シ得ベク又之ヲ六年以上ニ發生セシト云フモノ十六人ニ就テ見ルモ明ニ初行歩期ノ遲延セシモノ三人アリ(誕生期ノモノ七人不明ナルモノ六人)又彼ノ六二、〇%ナル大頭蓋四九、〇%ナル鳩胸ハ果シテ「ラヒチス」ナラバ主トシテ該部ノ發生旺盛ナル時期則初年ニ始マルベキモノニシテ後年ニ至リテ初メテ犯サル、コトノ少ナカルベキ筈ナリ其他余等ハ五ヶ月ノ兒ニ於テ「クラニオターベス」ヲ証明シタルカ故ニ本病ハ己ニ嬰兒期ニ發生スト云フヲ得ベシ而シテ彼ノ両親ノ初發時期ト信スルモノ、中ニハ眞ノ初發ニアラズシテ病機ノ再現モシクハ増悪セル時ヲ意味スルモノ決シテ少ナカラサルヲ想像スルナリ故ニ成書記載ノ「ラヒチス」ト本病トハ發生ノ点ニ於テ多少相違アルコトハ事實ナレモ未タ以テ全然異ナリトハ見做ス能ハサルナリ否寧ロ相類スルモノ多シト云ハント欲スルナリ然レモ余等ハ亦本病者ニ於テ或ハ「遲發ラヒチス」Spätnachits 型ト名付クベキヤ否ヤ未タ適當ノ解釋ヲ附スル能ハサルモ兎ニ角彼邦「ラヒチス」ト大ニ趣ヲ異ニスルモノアルヲ是認スルナリ(後章更ニ論及スベシ)

又両親ノ所謂發生時期(余等ノ考ニテハ再現モシクハ増悪ヲモ含ム)ヲ更ニ年季ニ分テハ記載ヤ、明ナルモノ二十人ニ付テ左表ヲ得ベシ

季節	春	夏	秋	冬	計
數	十一人	一人	四人	四人	二十人

由之觀是初發ニモセヨ或ハ再現増悪ニモセヨ春季ニ多クシテ夏季ニ少ナキヤ明ナリ之又歐州「ラヒチス」ト相一致ス

ト云フベシ

余等又本病ヲ誘發スル疾病アルヤ否ヤニ注意セシモ麻疹後ニ發生セシト云フモノ僅ニ一人アリシノミニシテ他ニ這般ノ疾病アルヲ微知スル能ハサリキ

第七章

經過豫後及治療上ノ見解

一旦ノ診察ヲ以テ經過ヲ確實ニ承認スルハ余等ノ能ハサル所ニシテ又推測或ハ両親ノ訴ヲ以テ之ヲ記述セバ却テ真相ヲ誤ルノ恐れアリ既ニ發生時期ニ於テスラ事實ノ真相ヲ失フモノアルガ如シ況ンヤ何レノ變化カ先驅シテ何レノ症候ハ後走スルヤ一進一退ノ模様ハ如何或ハ各病變完成ノ景況如何ヲ詳報セントスルニ於テヲヤ故ニ之ハ他日ノ報告ニ讓ルベキモ概シテ經過ハ慢性ニシテ或ハ一時停止シテ更ニ再現シ或ハ年季其他ノ關係ニヨリテ輕減増悪シ長キハ十年ヲ越ヘテ尙且増進スルモノアルガ如シ之レ大ニ普通「ラヒチス」ト異ナル所ナレモ余等未ダ解說スル能ハサルナリ(診斷ノ條參照)

豫後ニ關シテモ亦然リ之ヲ死亡届ニ徵シ或ハ村民ノ答ニ聞ケバ本病ノ爲メニ死亡セシモノアリシガ如キモ果シテ本病自己ノ爲メナルヤ或ハ合併症ノ爲メナラサリシヤ疑問ナリ然レモ本病ニシテ往々自然治愈(或ハ種々ノ關係ノ下ニ)スルモノアルハ確カナル事實ト云フヲ得ベシ又療法上ヨリ本病ヲ觀察スルニ輕快ノ甚タ著明ナルコト「ラヒチス」ニ似タリト雖モ經驗日尙淺キヲ以テ今茲ニ之ヲ論セズ

第八章 診斷

以上調査ニヨリテ本病ヲ診斷スルニ余等ハ先ツ「余等ガ實驗セル患者ハ悉ク同一種ノ疾病ト見做スベキカ或ハ二種以上ノ病型ヲ區別シ得ベキヤ否ヤ」ニ就テ判斷ヲ下サ、ル可ラズ余等ノ管見ニヨレバ本病ハ同一地域ニ存在シ悉ク

身体發育期ノモノヲ犯シ主トシテ女性ニ現ハシ皆骨變化ヲ呈シ而シテ骨變狀ノ部位型式モ殆ント同一途ニ出ヅ加之一般症狀及既往病歴モ一樣ナルヲ以テ本患者ハ凡テ同一種ノ疾病ニ罹レルモノト信スルナリ少ナクトモ余等ノ實驗範圍ニ於テハ彼ノ發生年齡及骨變化ノ強弱等ニヨリテ之ヲ二種類ニ區別セントスルモノニハ贊同スル能ハサルナリ(下章之ヲ詳論スベシ)

次ニ來ルトコロノ「本病ハ果シテ何病ナルカ」ノ問題ニ付テハ之ヲ成書ニ徴シ圖書ニ照シテ余等ハ佝僂病 Rachitisト診定セント欲スルモノナリ則前表ニ於テ見ルカ如ク頭部胸廓脊柱四肢ノ骨系統ニ現ハル、變化ハ成書ニ記載セル「ラヒチス」ノ變化ト全然符合シ己往病歴一般症狀加之經過轉歸モ悉ク之ニ一致スルカ如シ其他計測ニ比シテ發育ノ不及ヲ見ルベク年齡ニ算シテ小兒病タルヲ知ルベク假令未タ歐州ノ「ラヒチス」ヲ實驗セズ又之ヲ病理解剖ニ證明セズト雖モ「ラヒチス」ト診定スルノ必ズシモ早計ナラサルヲ信スルナリ只多クノ成書ニ記載セルモノト異ナル点四ツアリ曰ク第一榮養狀態ノ比較的良ナル第二消化障害ノ比較的少キ第三女性ニ多キ第四發生ノ遅キ(所謂 *Distrachitis* ニ屬スルモノ多キ)之ナリ然レモ余等ノ見ル所ニテハ此ノ榮養狀態ノ歐州「ラヒチス」ニ比シテ良ナルハ患者ノ年齡ニ關係アルモノ、如シ則彼地ノ患者ハ主トシテ四才以下ナルベキニ余等ノ患者ハ四才以上ノモノ多キニヨリ從テ榮養方法ニ單複等ノ差ヲ生シ(四才以上ノモノハ人ノ手ヲ借ラス自ラ種々ノ榮養物ヲ攝取シ得ルナリ)以テ榮養狀態ニ良、不良ノ相違ヲ來スニ非ザルナキヤ實際余等ノ患者ニ於テモ四才以下ニ榮養不良ノモノ多クシテ成書ノ記載ト一致スルカ故ニ是ヲ以テ「ラヒチス」ノ診斷ヲ否定スベキ理由トナス可ラザルナリ又消化障害ノ比較的少ナキモ同ク年齡ノ關係ニシテ余等ノ患者ハ年長兒多キガ故ニ消化管モ已ニ十分ナル抵抗力ヲ發展シテ消化不良症ヲ見ルノ少ナキニハ非サルカ其他農民ハ其子ニ注意ヲ拂フノ細心ナラサルト少シノ障害ハ敢テ意ニ介セサルガ爲メニ余等ノ問ニ明

答ヲ與ヘサリシモ其一因ナランカ之ニ反シテ女性ニ甚タ多キ所以ハ其理ヲ解スルコト能ハサルモ歐州ノ統計中ニモ女性ノ超過カナリ著明ナルモノアルガ故ニ之亦「ラヒチス」ノ診斷ヲ否定スルノ材料トハナラサルベシ第四ノ發生遲ク且ツ永ク停止セサルコト則歐州ニ稀レナルベキ所謂遲發「ラヒチス」型(?)ノ多キハ説明ヤ、困難ナリト雖モ或ハ自他社會的影響ノ榮養狀態ニ及ホス關係異ナルガ爲メ或ハ人種の相違等ニ歸因スベキニアラズヤ又余等ノ患者ニ於テモ精細ニ觀察スレバ前章ニ論述セシガ如ク両親カ訴フル發生時期ハ果シテ初發時期ナルヤ否ヤ疑ハシキモノ多ク加之患者ノ大多數ニ於テハ寧ロ幼兒期ノ遺殘症ト云フノ至當ナルベキ頭部胸廓等ノ變狀ヲ証明シ得ベク又初行歩期モ大低遲延シ或ハ初行歩期已ニ異樣狀態ヲ發見シタリト訴フルモノアリ又實際両親ノ健全ト信セシ乳兒ニ完成セル本病ヲ發見シ且ツ四才以下ノ患兒亦少カラサルヲ以テ見レバ或ハ四才以上ニ發生セリト云フモノ、中ニ恐ラクハ乳兒期乃至四才以內ニ初發セシモ一旦輕快シ若クハ注意ニ上ラズシテ經過シ行歩スルニ至リテ初メテ發見セラレ或ハ數年ノ後ニ至リテ再發セシヲ本病ノ發生初期トシテ加算セラレシモノ少カラサルベシ但シ余等ハ勿論之ヲ以テ遲發型(?)ナルモノヲ抹殺セントスルニ非ズ却テ歐州普通ノ「ラヒチス」型ト相違スル点ナルヲ確信スルモノナレモ取テ以テ直ニ余等ガ「ラヒチス」ナル診斷ヲ動スノ反証トナス可ラサルヲ論セント欲スルニ過キサルナリ實ニ又歐州ニ於テモ「ミクリツチ」氏ノ如キ大家ニシテ不全症ヲ呈スル少年「ラヒチス」ハ決シテ少カラズト考フルモノアルカ故ニ本病ガ永ク停止セズシテ進行スルコトヲ以テモ亦「ラヒチス」ノ診斷ヲ否定スルヲ能サルベシ

余等ノ信スル所如此然レモ普通新聞紙若クハ學者ノ說トシテ傳聞スル所ニテハ骨軟化症ノ合併アリト云ヒ或ハ「ラヒチス」ト骨軟化症ノ中間ニ位スル一種特異ノ症ナラント云ヒ或ハ多發「エキソストーゼ」ナルベシ或ハ畸形性關節炎ナラン曰何、曰何ト多樣ノ觀察アルガ如シ故ニ或ハ蛇足ニ亘ル恐アルモ此等ニ向ツテ少シク批判ヲ下スモ亦余等

ノ義務ナリト信ズ

第一本病ハ骨軟化症ナラズヤ或ハ本病中ニ骨軟化症ヲ混同若クハ合併シアラサルヤノ問題ニ付テハ余等ノ實驗例ニ於テハ之ヲ否定セサル可ラズ何トナレバ成書ノ骨軟化症ト余等ノ患者ヲ比較セバ先ツ左ノ相違點ヲ發見シ得ベケレバナリ

骨軟化症

余等ノ患者

年齢、二十才―四十才ニ多シ

二十才以下ニ多シ

發病、ハ多ク妊娠時モシクハ

發病皆幼時ニアリ

分娩後ニアリ

症狀、骨變化ハ主トシテ骨盤骨ニ多ク之ニ

骨變狀ハ四肢骨ニ尤モ多ク且高度ニシテ骨

次クハ脊柱及胸廓ニシテ四肢骨ニ少

盤骨ハ甚タ少ク且ツ輕度ナリ

ナシ

骨盤變化アルモノモ耻骨縫際ノ嘴狀隆起

骨盤變化ノ特徴トシテ耻骨縫際ノ嘴

ヲ認メズ

狀隆起アリ

年齢幼ニシテ尤ヨリ月經分娩トノ關係ヲ舉

分娩時障害アリ又月經時増悪ヲ認ム

クル能ハズ又同地方ニ難産ノ多キヲ聞カズ

又二三月經アルモノモ同時ニ増悪スルヲ

訴ヘズ

發病時該當骨ノ劇痛アリ

疼痛ナクシテ經過スルモノ多ク之アルモ歩

豫後、ハ手術モシクハ永續ノ治療ヲ施スナ

クンバ甚タ不良ナリ則チ八十%ト死

スト云フ

本病ハ甚タ稀レナルモノニ一八九

五年オルトマン氏ノ記載ニ今迄報告

セラレシモノ漸ク五百ヲ超ユトアリ

行ニノミ發スル輕度ノモノナリ

自然治癒ヲナスモノ多ク之ガ爲メニ死スコ

ト多カラサルハ事實ナリ(本病發見由來ノ

條參照)

本病ハ余等ノ調査セル小區域ノミニテ已ニ

五十三例ヲ得タリ以テ其稀有ナラサルヲ知

ルベシ

如此鑑別シ來レバ骨軟化症ト本病ノ異ナルヤ明ナラン又骨軟化症ノ混同モシクハ合併ナキヤノ問題ニ付テ余等ガ實
 驗セル輕症モシクハ中等症ノモノニハ更ニ這般ノ疑ヲ容ルベキ点ナク重症患者三人ニ付テ考フルモ骨盤骨ノ變形ノ
 他骨ニ比シテ甚タシカラズ且耻骨縫際ノ嚙狀突出ナシ加之幼若ノトキニ發生セシモノニシテ左程ノ劇痛ヲ有セサリ
 シヲ以テ高度ノ「ラヒチス」トシテ説明スルモ餘リアリ強テ骨軟化症ノ合併ヲ付會スルノ要ヲ見サルナリ故ニ余等ハ
 余等ノ症例ヲ以テ骨軟化症ニハアラズ又骨軟化症ノ合併モシクハ混同モナキモノト信スルナリ

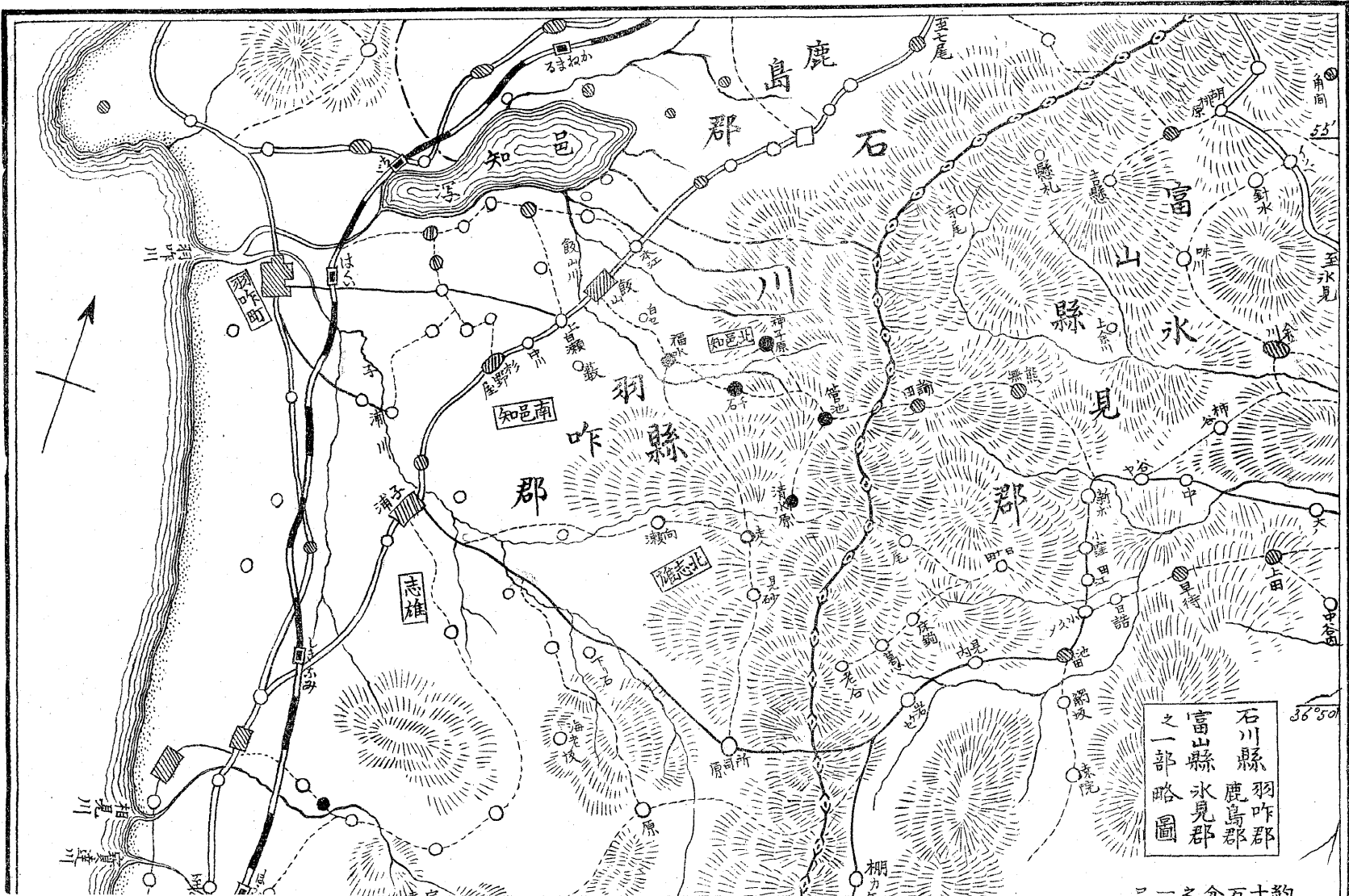
第二本病ヲ以テ「ラヒチス」ト骨軟化症ノ中間ニ位スル一種特別ノモノトナサント欲スルノ說ハ病理解剖上モシクハ
 臨床上優力ナル證據アルニアラサレバ輕々シク提出スベカラサルモノト信ズ臨床上少シノ變態アリトテ直ニ之ヲ異
 種類ト見做サハ仮令ハ同種ノ傳染病モ亦各流行ニ從ツテ多種類ニ分別セサル可ラサルノ愚ニ陷ルナラン云フ迄モナ
 ク同一病種ト雖モ風土人種年齡兩性其他個人的差違等ニヨリテ變態ヲ現ハスモノナレバ本病モ亦歐州ノ「ラヒチス」
 及骨軟化症ト少シノ差違アルガ爲メ中間種ト見做スハ甚タ早計ナルガ如シ況ンヤ如此中間種ナル疾病ハ未タ成書ニ

求ムベカラザルオヤ余等ノ見ル所ニテハ己ニ論ゼシ如ク「ラヒチス」トシテ相適シ骨軟化症トシテハ甚ダ相遠キヲ以テ從テ苦テ中間種ナルモノヲ仮定スルノ甚ダ迂ナルヲ信ズルナリ

第三多發性「エキソストーゼ」ナラズヤトノ疑問ヲ放ツハ恐ラク本病ヲ一見セザルモノ、空想ニ過ギザルベシ苟モ本病ヲ實驗セシモノハ如此骨端軟骨全体ノ膨大ヲ來シ且骨幹ノ屈撓ヲ致スモノニ向ツテ彼ノ局限性腫瘍狀骨新生ヲ呈スル「エキソストーゼ」ノ疑ヲ懷クコハ決シテ之アラザルベシ余等尤ヨリ茲ニ鑑別ヲ尋ルノ蛇足ナルヲ信ゼシモ尙念ノ爲メ成書ヲ翻讀セシガ遂ニ其軟骨性ノモノニモ骨性ノモノニモ本病ニ類スル病型ヲ發見スル能ハザリキ又余等ノ患者ニ於テ脛骨ノ「エキソストーゼ」ヲ合併セシモノアレハ如此合併ハ亦成書ノ記述スル所ニシテ決シテ本病ヲ「エキストーゼ」ト疑ハシムル材料トハナラザルナリ

第四畸形關節炎(主トシテ癱麻質私性)ナラズヤトノ疑ハ稍々理由アリト雖モ又精細ニ觀察スレバ自ラ差違アリ則本患者ノ骨端膨大ハ大低同一形式ニシテ畸形關節炎ノ如ク不規律ナラズ又畸形關節炎ニハ關節ノ運動障害現著ナレハ本患者ハ其變形甚ダシキモノナラザレバ攣縮及強直ヲ來スコナシ換言スレバ關節面ノ變狀ハ多カラザルガ如シ又關節炎ニハ常ニ運動時摩擦音アレハ本病者ニハ之ヲ觸知セズ又畸形關節炎ノ多ク侵害スル掌指關節ハ本病ニハ全ク「フライ」ナリ其他年齡骨軟化及脊柱彎曲等ノ異点少ナカラザルモ余等ハ悉ク之ヲ指摘列舉スルノ必要ヲ見ザルナリ

其他「ラヒチス」ト鑑別ヲ要スルモノトシテ成書ニ列舉セルモノニ先天梅毒、慢性骨髓炎及粘液水腫、バルロー氏病等アレハ是等ハ皆一歳以下ノ嬰兒病ニシテ余等ノ患者ニ於ケルガ如キ年長兒ニハ殆ンド顧慮スルノ要ヲ見ズ加之其「ロカリザチオン」、疼痛ノ度、轉歸及其他ノ症狀全ク異ナルヲ以テ強テ茲ニ蛇足ヲ畫カザルベシ



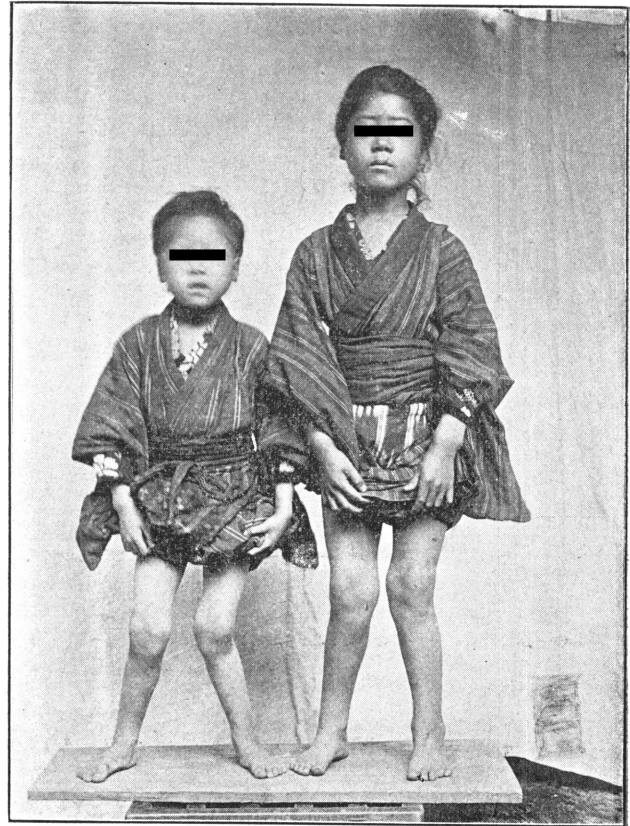
石川縣 羽咋郡
 鹿島郡
 富山縣 氷見郡
 之一部略圖



隆突部隅骨助部下及彎後椎腰胸 圖貳第

(月ヶ九年四) △ し △ 石 △

(照參事記者患號二十第表三第例驗實)



脚 X ノ 明 著 圖 壹 第

(月ヶ一十年二十) つ △ 山 △ 姉

(月ヶ十年七) い つ △ 山 △ 妹

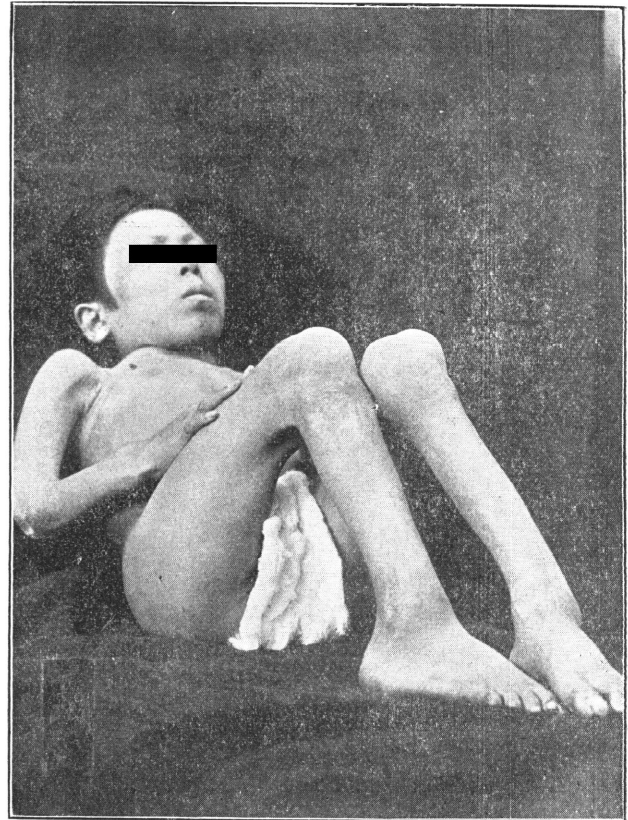
(照參事記者患號二十第全及號七十第表一第例驗實)



乙圖參第

珠連及大膨ノゼイフタメ骨肢上兩

上 全



身 全 甲圖參第

(懸狀ノ直強肢下上テシニ位臥仰ノ所ルトニ常者患本ハ置位)

(月々九年十二) △ く △ 島 △

(照參事記者患號九十第表一第例驗實)

第九章 結論

以上ノ調査ニヨリテ余等ハ左ノ斷案ヲ下サント欲ス

一 余等ノ實驗セル管池地方ニ存在スル所謂奇病ナルモノハ佝僂病ナリ

二 余等ノ調査ニ上リシモノニハ成書ニ云フ所ノ骨軟化症ノ症狀ヲ具備セルモノヲ發見セズ

三 此佝僂病ニハ所謂遲發型(?)ニ屬スルモノ比較的多數ナリ

四 本病ノ原因ハ全ク不明ナリ誘因モ未ダ確定スル能ハズ

終ニ臨ンデ此調査ニ便宜ヲ與ヘラレタル金澤病院外科第一部長下平用彩、警察醫越野義三郎、羽咋郡書記寺田貢、醫師鈴木秀英、北邑知村役塲吏員中野臣一、管池區長北山次吉、杉本吉兵衛、千石區長水口辰次郎、神子原區長出口助作諸氏ニ謝意ヲ表ス

(明治二十九年八月五日稿)

○白點狀網膜炎之實例 (第壹表)

Zur Oasistik der Retinitis punctata albesens.

高安右人

(澤金)

白點狀網膜炎ハ西曆千八百八十二年モーレン氏ガ Retinitis punctata albesens ト名附ケテ初テ世ニ公ニセシ所ノ眼病ニシテ非常ニ稀有ノ疾病ナルコト能ク讀者ノ知ル所ナリ而シテモーレン氏ノ發表以來真ニ本病ニ屬スルモノト認ムヘキモノ今日迄僅ニ十六例ニ過キス故ニ予ハ近頃自身ニ實驗シタル二個ノ例ニ就キ是迄既ニ報告セラレタルモノ